

東日本大震災から5年、 復興の今とこれから。

私たちがくらす日本はとても自然災害が多い国。

その中でも地震による災害は特に多く、2011年3月11日に発生した東日本大震災は、未だに大きなつめあとを残しています。

未来に起きるかもしれない災害、その時に子どもたちの不安は少なくあって欲しい…震災後の今を知り、いまいちど、何ができるかを考えます。

2016年3月11日(金)

かながわ県民センター 2Fホール

入場無料

▶第1部 10:30~12:30

基調講演「被災地の今」(仮)

被災地の復興状況、震災を踏まえた地域防災の取り組み、復興を支える技術者や被災者支援の取り組みの報告と、6年目にむけての展望について。

▶第2部 13:30~16:30

「ユニセフ・子どもにやさしい空間」ワークショップ

要申込み
定員30名

ファシリテーター：小野 道子(日本ユニセフ協会・子どもの保護アドバイザー)

本田 涼子(日本ユニセフ協会・心理社会的ケアアドバイザー)

災害時に子どもたちを守るため、「子どもにやさしい空間」が世界中の被災地でつくられます。いざという時、誰もが使える“子どもの居場所”づくりの知識と技術を学びます。

赤ちゃんが泣き止まないあやせる場が欲しい

授乳できる場所がないかしら？

避難所じゃ騒げない思い切り遊べない元気がでないよ

避難所じゃ落ち着いて勉強できないよ



●プログラム

【講義とディスカッション】

「子どもにやさしい空間」とは？
「子どもにやさしい空間」の実践

【グループワーク】

「子どもにやさしい空間」を
実際に作ってみよう

どなたでも参加できます。

地域住民、PTA、教員など学校関係者、医療福祉関係者、NPOや地域の子どもの子育て支援者や、自治体職員、学生など、子ども支援に関心のある方は是非ご参加ください。

災害だけでなく、「子ども食堂」など、子どもの健やかな成長に必要な“居場所づくり”に役立つヒントも提供します。

2016年3月10日(木) 13:00~20:00 11日(金) 9:30~12:00

かながわ県民センター 1F展示場

かながわ県民センター

〒221-0835

神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

電話045-312-1121(代表)



横浜駅西口・きた西口から徒歩5分

展示

1 行政関連(被災県含む)のブース

2 支援団体のブース

3 神奈川県ユニセフ協会のブース

「東日本大震災とデザインの力」

被災して“非日常”の生活の中で一番始めに必要とされたのは居・食・住。しばらくして緊張が解けてくる頃になると、避難先や破壊された町の中で暮らすストレスの大きさに気づき、心は押し潰れそうな気持ちでいっぱいになります。大規模災害、物の支援の次に必要とされたのは心の支援でした。被災地に向いてガレキを片づける人、避難所で話し相手になる人、現地には行けないけれど寄付を贈る人。それぞれが、被災者のために出来ることを考え、多くの人が行動しました。言葉だけでは伝わらないほど弱っている時でも、心に直接アプローチできる、心を元気にできる、その方法の1つがデザインです。ユニセフでは、デザイナーのみなさんの力をお借りしてこんな気持ちを“形”にして被災地を応援し続けてきました。

主催: 神奈川県
共催: 神奈川県ユニセフ協会
協力: 公益財団法人 日本ユニセフ協会

基調講演&展示のお問合せ

神奈川県安全防災局
安全防災部災害対策課

TEL 045-210-5945 FAX045-210-8829

ワークショップ&トークセッションのお申込み・お問合せ

神奈川県ユニセフ協会

TEL 045-334-8950 FAX045-334-8951

E-mail info@unicef-kanagawa.jp

URL http://www.unicef-kanagawa.jp/



ホットラインポスター



子どもにやさしい空間



ちっちゃな図書館



祈りのツリー



TEGAMIプロジェクト

要申込み
定員30名

トーク
セッション

2016年3月10日(木) 19:00~20:00

かながわ県民センター 1F展示場控室

福島 治 (福島デザイン)

永井一史 (HAKUHODO DESIGN)

並河 進 (電通ソーシャル・デザイン・エンジン)

県内避難者支援活動展示

「守りたい
子ども未来プロジェクト」



同時開催

3.11 追悼キャンドルナイト

2016年3月11日(金) 19:00~19:30

かながわ県民センター 正面入口付近

主催 特定非営利活動法人

神奈川災害ボランティアネットワーク

問合せ先 090(8803)2417